

2021年11月10日 全8頁

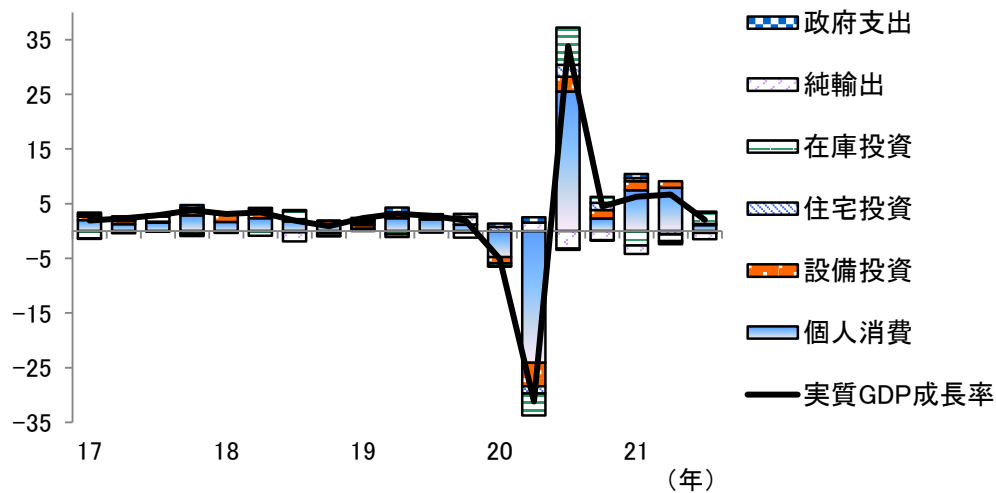
アメリカ経済グラフポケット (2021年11月号)

2021年11月8日発表分までの主要経済指標

ニューヨークリサーチセンター 上野 まな美
研究員 矢作 大祐

実質GDPの推移

(前期比年率、%、%pt)



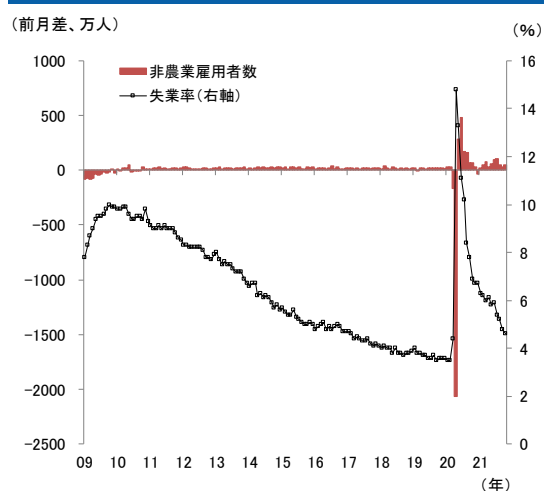
(前期比年率、%、%pt)	2019	2020				2021		
	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9
国内総生産	1.9	-5.1	-31.2	33.8	4.5	6.3	6.7	2.0
個人消費	1.7	-6.9	-33.4	41.4	3.4	11.4	12.0	1.6
設備投資	-1.7	-8.1	-30.3	18.7	12.5	12.9	9.2	1.8
住宅投資	1.1	20.4	-30.7	59.9	34.4	13.3	-11.7	-7.7
政府支出	3.0	3.7	3.9	-2.1	-0.5	4.2	-2.0	0.8
輸出	1.2	-16.3	-59.9	54.5	22.5	-2.9	7.6	-2.5
輸入	-8.5	-13.1	-53.1	89.2	31.3	9.3	7.1	6.1
寄与度								
個人消費	1.1	-4.8	-24.1	25.5	2.3	7.4	7.9	1.1
設備投資	-0.2	-1.1	-4.3	2.7	1.6	1.7	1.2	0.2
住宅投資	0.0	0.7	-1.4	2.2	1.3	0.6	-0.6	-0.4
在庫投資	-1.0	-0.5	-4.0	6.8	1.1	-2.6	-1.3	2.1
政府支出	0.5	0.6	1.0	-0.2	-0.1	0.8	-0.4	0.1
輸出	0.2	-2.0	-8.3	4.6	2.1	-0.3	0.8	-0.3
輸入	1.3	1.9	9.9	-7.9	-3.7	-1.3	-1.0	-0.9

(出所) BEA, Haver Analyticsより大和総研作成

雇用環境¹

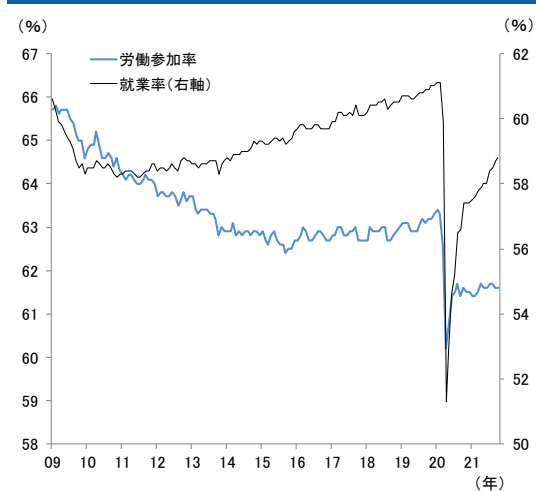
- ◆ 10月の失業率は4.6%となり、前月から0.2%pt低下した。失業率は4ヵ月連続で改善し、2020年3月以来の低水準となった。
- ◆ 10月の非農業部門雇用者数の前月差は53.1万人増となった。新型コロナウイルスの新規感染者数の減少により労働参加が進んだものとみられ、サービス部門における雇用者数が大きく伸びるなど全体的に改善し、前月から増加幅が拡大した。
- ◆ 非農業部門雇用者数の前月差の6ヵ月平均は66.6万人増となった。

非農業雇用者数と失業率



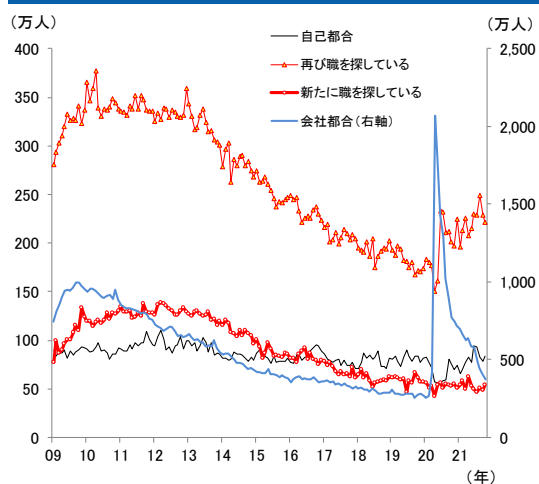
(出所)BLS, Haver Analyticsより大和総研作成

労働参加率と就業率



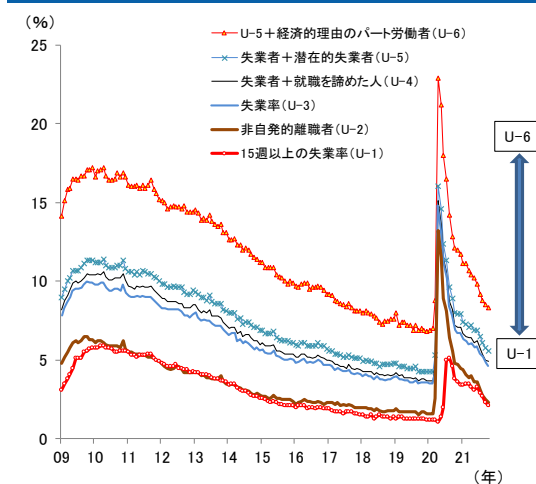
(出所)BLS, Haver Analyticsより大和総研作成

理由別失業者数



(出所)BLS, Haver Analyticsより大和総研作成

定義別失業率



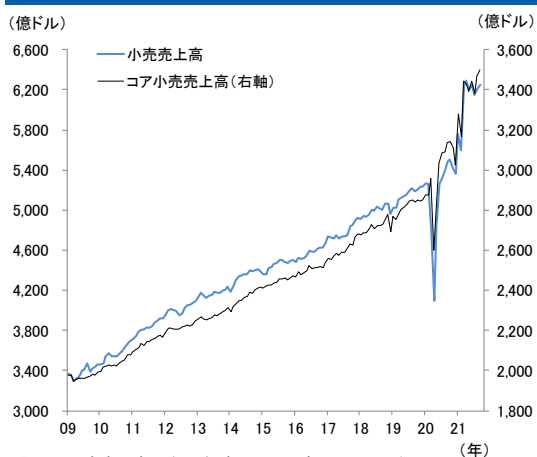
(出所)BLS, Haver Analyticsより大和総研作成

¹ 大和総研レポート ニューヨークリサーチセンター 矢作大祐「雇用者数は前月差+53.1万人と加速(2021年11月8日)参照。https://www.dir.co.jp/report/research/economics/usa/20211108_022633.html

個人消費

- ◆ 9月の小売売上高は前月比0.7%増となった。新型コロナウイルスの感染拡大や失業保険の給付増額の期限到来の影響などが懸念されたが、2ヵ月連続で増加した。コア小売売上高は同0.8%増と前月から伸びが鈍化したものの、2ヵ月連続の増加となった。
- ◆ 10月の自動車販売台数は前月比6.0%増加し、年率換算で1,312万台となった。6ヵ月ぶりに増加に転じたが、半導体不足に加えて港湾混雑による部品等の供給制約が生産を圧迫し、販売台数は低水準が続いている。
- ◆ 10月のロイター/ミシガン大消費者センチメントは、前月の72.8から71.7へと低下した。新型コロナウイルスや供給制約に対する懸念のほか、政府の経済政策に対する信頼が大幅に低下し、2011年12月以来の低水準となった8月に次ぐ低い水準となった。

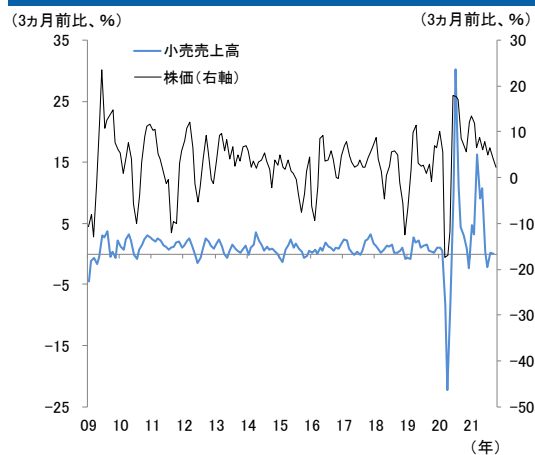
小売売上高の推移



(注)コア小売売上高は自動車ディーラー、ガソリンスタンド、建材・園芸、飲食サービスを除く。

(出所)Census, Haver Analyticsより大和総研作成

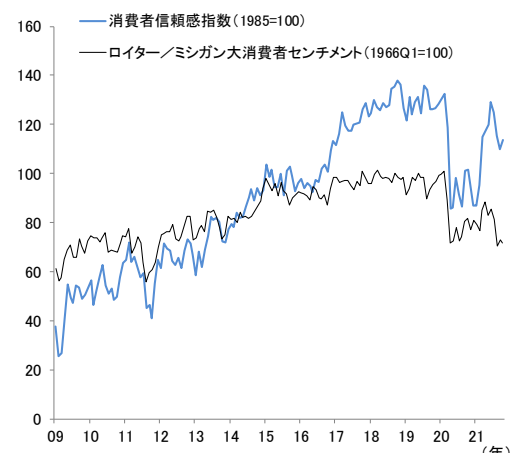
消費と株価



(注)株価はWilshire5000。

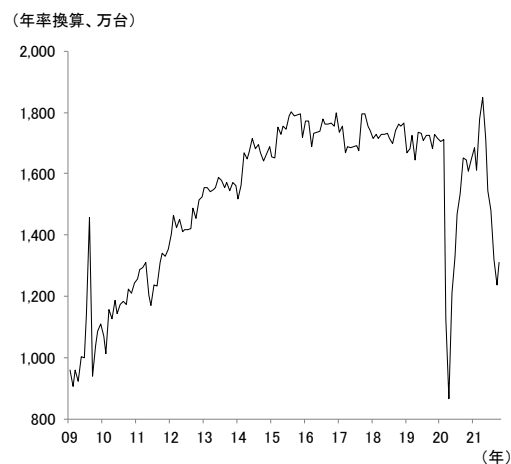
(出所)Census, Dow Jones, Haver Analyticsより大和総研作成

消費者マインド



(出所)ロイター/ミシガン大, Conference Board, Haver Analyticsより大和総研作成

自動車販売台数



(出所)Autodata, Haver Analyticsより大和総研作成

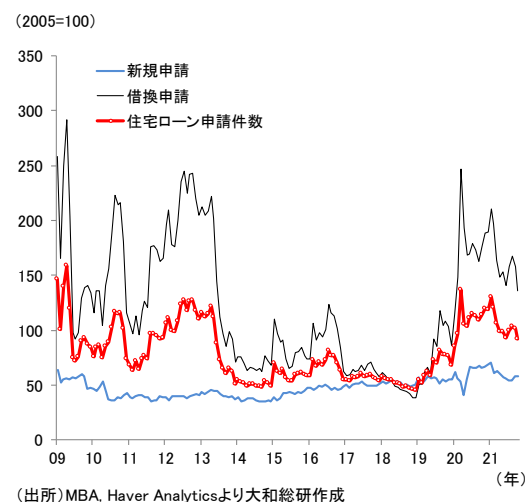
住宅市場

- ◆ 9月の新築住宅着工件数（一戸建てと集合住宅を含む）は、前月比1.6%減の年率換算155.5万戸となった。建設資材や労働力不足が下押し要因となり、減少に転じた。
- ◆ 9月の中古住宅販売件数（一戸建て）は、前月比7.7%増の年率換算559.0万戸であった。在庫不足が前月より改善したことなどが押し上げ要因となり、1月以来の高水準となった。
- ◆ 9月の新築住宅販売件数（一戸建て）は、前月比14.0%増の年率換算80.0万戸となった。販売価格の中央値が新たに過去最高を記録したものの、中西部を除く全地域で販売が前月から急増し、3月以来の高水準となった。
- ◆ 8月のケースシラー住宅価格指数（20都市）は、前月から1.2%上昇した。住宅需給の逼迫が住宅価格を押し上げて、価格は上昇基調にあるが、2ヵ月連続で上昇率が鈍化した。

住宅販売（一戸建て）



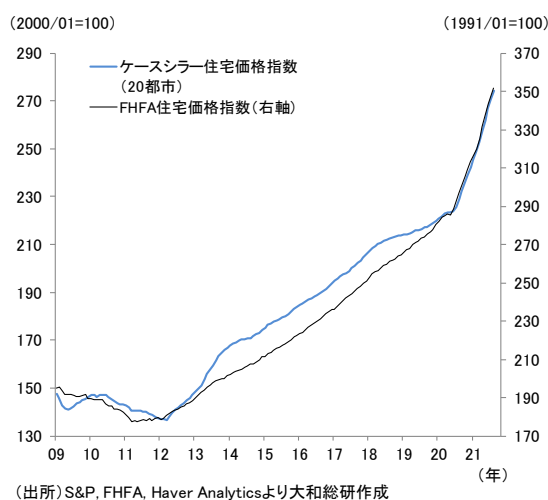
住宅ローン申請件数



住宅着工と建設業者の景況感



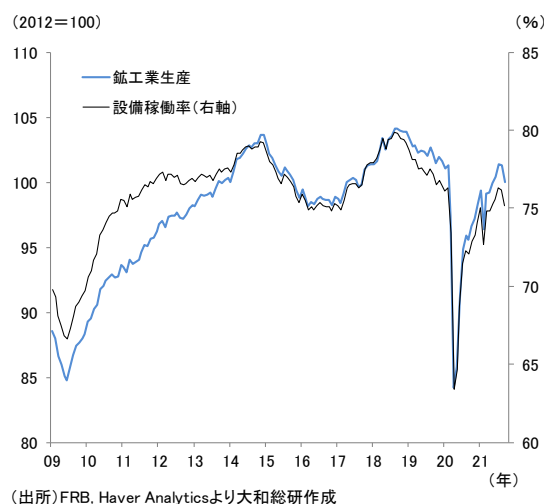
住宅価格



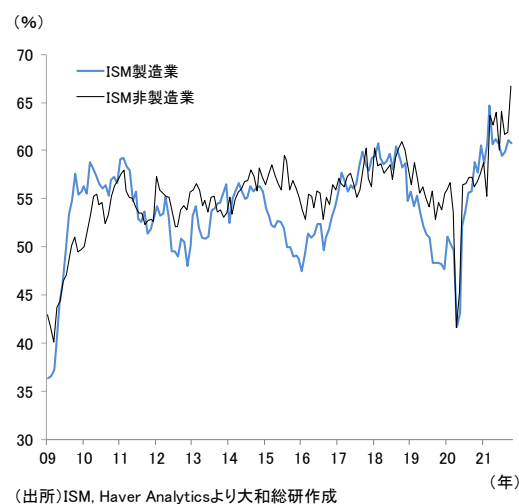
企業動向

- ◆ 9月の鉱工業生産指数は前月比1.3%低下した。ハリケーン・アイダの影響が長引いて2ヵ月連続で低下し、2月以来の大幅な低下となった。生産指数全体の約75%を占める製造業(SICベース)は、半導体不足による自動車・同部品の生産減が響いて同0.7%低下したほか、公益及び鉱業も低下した。
- ◆ 9月の国防・民間航空機を除く資本財受注(コア資本財受注)は、前月比0.8%増となった。7ヵ月連続で増加し、パンデミック前の水準を大きく上回る状況が続いている。
- ◆ 10月のISM製造業指数は、前月から0.3%pt低下の60.8%となった。わずかに低下に転じたものの堅調な需要に支えられ、2ヵ月連続で60%超の高水準となった。非製造業指数は前月から4.8%pt上昇の66.7%となった。新型コロナウイルスの新規感染者数の減少による需要拡大が押し上げ要因となり、前月から伸びが加速し、7月に続いて統計開始以来最高水準を記録した。

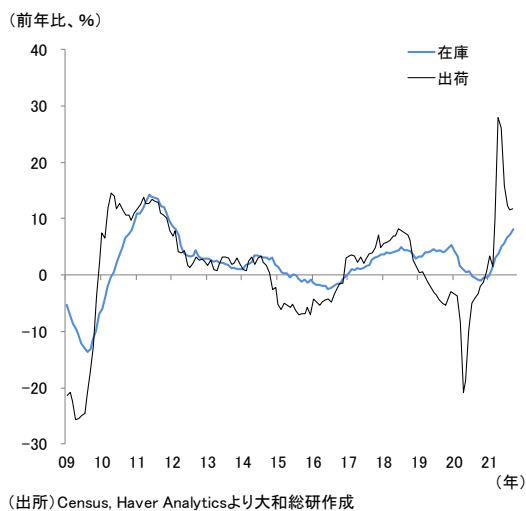
鉱工業生産と設備稼働率



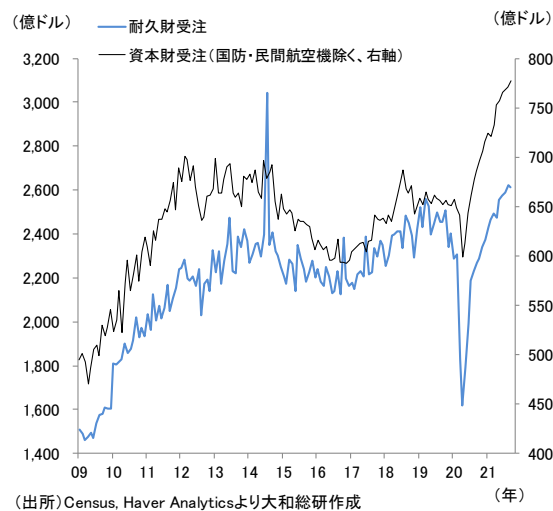
企業の景況感



製造業の出荷・在庫



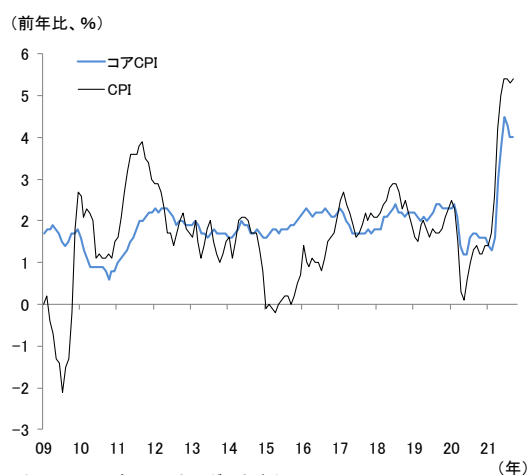
耐久財受注



物価動向

- ◆ 9月のCPI（消費者物価指数）は前年比5.4%上昇した。家賃の上昇が目立ったほか、エネルギーや食品の急騰が物価上昇圧力となり、前月から伸びがわずかに加速し、5ヵ月連続で5%を超す高い伸びとなった。コアCPIは同4.0%上昇し、前月と同水準の伸びとなった。
- ◆ 10月の2年先期待インフレ率は1.59%となった。前月から伸び率が大きく鈍化し、7ヵ月ぶりの低下となった。5年先期待インフレ率は1.49%となり、9ヵ月ぶりに低下した。
- ◆ 10月末のWTI原油先物価格は83.57ドル/バレルとなり、9月末の75.03ドル/バレルから急騰した。需給逼迫の懸念が継続する中、OPECプラスが増産を見送ったことなどから、月末値は80ドル/バレルを超えて2014年9月以来の高値となった。

消費者物価指数



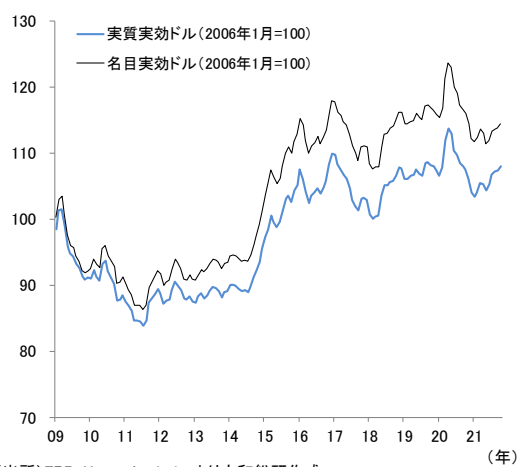
(注)コアCPIは食品、エネルギーを除く。
(出所)BLS, Haver Analyticsより大和総研作成

期待インフレ率



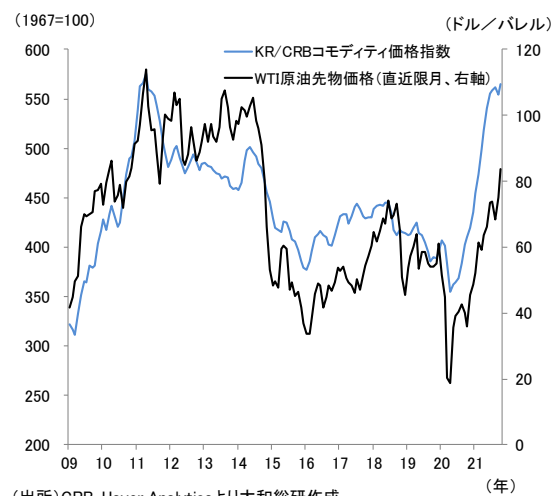
(出所)Cleveland Fed, Haver Analyticsより大和総研作成

実効為替レート(ブロード)



(出所)FRB, Haver Analyticsより大和総研作成

コモディティ価格

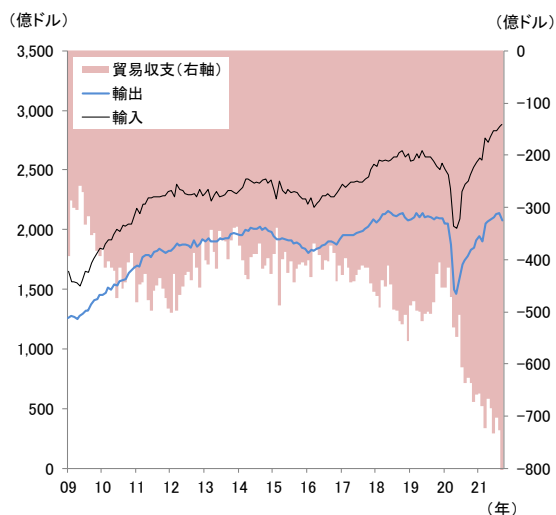


(出所)CRB, Haver Analyticsより大和総研作成

輸出入・経常収支

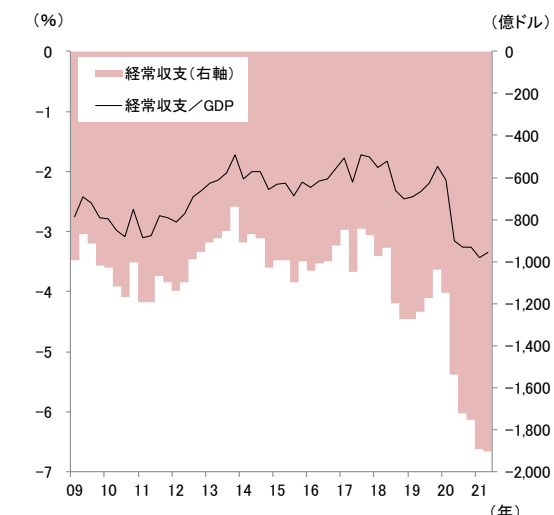
- ◆ 9月の貿易収支（財・サービス）は、輸出が前月比3.0%減少し、輸入は同0.6%増加した。この結果、貿易赤字は同11.2%増の809億ドルと、2020年7月以来の大幅増となった。
- ◆ 輸出入（財）を商品別に見ると、輸出では非貨幣用金などの工業製品・原料が主に減少し、輸入においてはコンピューターといった資本財の増加が目立った。
- ◆ 地域別（財）では、欧州向けの輸出が前年比15.3%増、日本向けが同23.9%増加し、ともに6ヵ月連続で二桁台の大幅増となった。一方、中国向けの輸出は同5.1%減と、2020年3月以来の減少となった。輸入に関しては、日本からの輸入が同5.9%増、中国からは同15.1%増、欧州からの輸入も同17.8%増となった。日本からの輸入は8月まで5ヵ月連続で二桁台の伸びであったが、伸び幅が大きく縮小した。

貿易収支動向



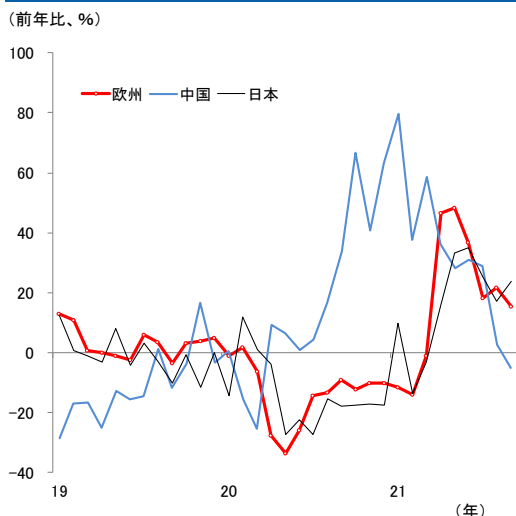
（出所）Census, Haver Analyticsより大和総研作成

経常収支の推移



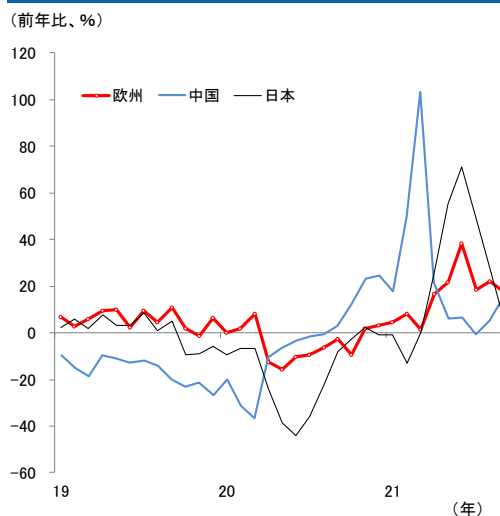
（出所）BEA, Haver Analyticsより大和総研作成

国・地域別輸出動向



（出所）Census, Haver Analyticsより大和総研作成

国・地域別輸入動向

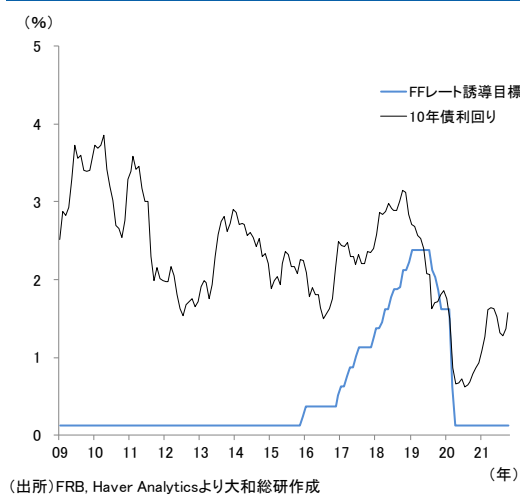


（出所）Census, Haver Analyticsより大和総研作成

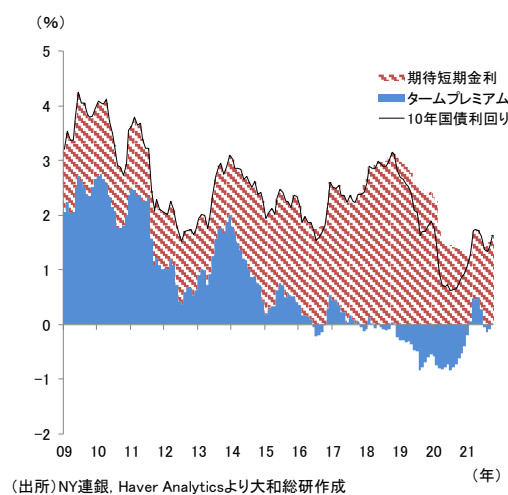
金融・財政

- ◆ 11月のFOMC（連邦公開市場委員会）において、政策金利であるFF（フェデラルファンド）レートの目標レンジが0.00-0.25%で据え置かれた。また、量的緩和の段階的縮小（テーパリング）を11年半ばに開始し、国債などの購入を月額150億ドル減少することが公表された²。11月3日の週のFRBの資産残高は平均で約8兆6,200億ドルであった。
- ◆ 10月の長期金利（10年債利回り）の月中平均値は1.58%となった。11月のFOMCにおいてテーパリングが公表される可能性が高まったことなどから上昇し、5月以来の高水準となった。
- ◆ 連邦政府の財政収支（12ヵ月平均）は赤字幅が高水準で推移しているが、2ヵ月連続で縮小した。

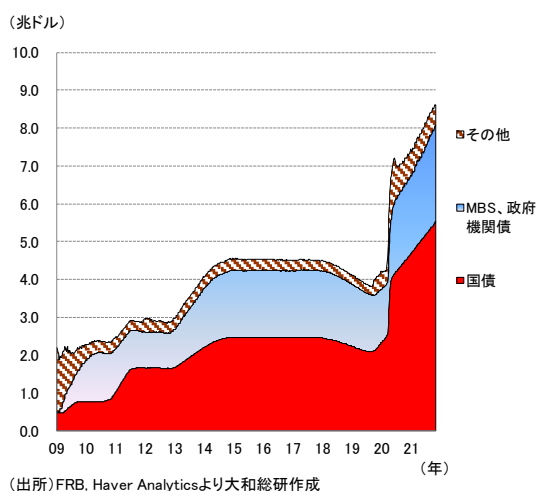
政策金利-長期金利



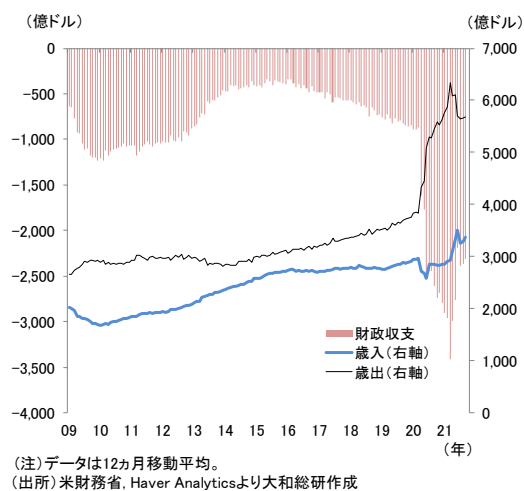
タームプレミアム(10年)



FRBの資産構成



連邦政府の財政収支



² 大和総研レポート ニューヨークリサーチセンター 矢作大祐「FOMC 想定通りテーパリングの実施を公表」(2021年11月4日)参照。https://www.dir.co.jp/report/research/economics/usa/20211104_022629.html